



令和6年度 木津川市決算のあらまし

(木津川市の家計簿)



改修後の中央図書館

もくじ

はじめに	1
令和6年度 木津川市決算一覧	1
木津川市の収入状況	2
木津川市の支出状況	3
基金(=貯金)の残高	4
市債(=借金)の残高	5
健全化判断比率の状況	6
その他の財政指標	7
令和6年度の主な事業	9
木津川市ふるさと寄附金	15
都市計画税に関する事業	18
木津川市の家計簿	巻末

木津川市の
財政状況を
わかりやすく
解説します。

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**



木津川市マスコットキャラクター
いづみ姫

はじめに

地方公共団体は、市民の皆さんに納めていただいた税金などを財源として、いろいろな事務・事業（仕事）を行っています。

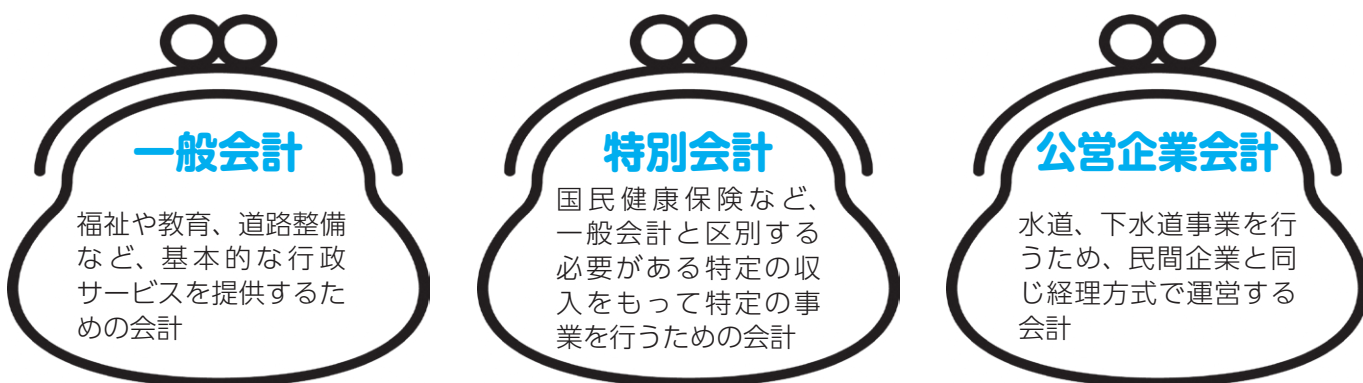
年度の始まる前に仕事の計画とそれに必要な経費や財源について、1年間の収支計画である「予算」を作成し、年度が終わった後に、予算で決められたお金の使い道に沿って、実際にどのようにお金が使われたか法律に基づき明らかにしなければなりません。このような1年間の収入と支出の実績を「決算」といいます。

木津川市では、市民の皆さんに納めていただいた税金がどのように使われたのか、木津川市の財政がどのような状況にあるのかを知っていただくために、「木津川市決算のあらまし（木津川市の家計簿）」を作成しています。

令和6年度 木津川市決算一覧

●木津川市のおサイフ（会計）

木津川市のおサイフ（会計）は、一般会計のほかに特別会計と公営企業会計に分かれています。このおサイフごとにそれぞれ1年間の収入と支出の計画である「予算」をたてて事務・事業を行っています。この冊子では、一般会計の決算を中心に説明します。



（単位：万円）

会 計 別			歳 入	歳 出	差 引 額
一 般 会 計			3,492,837	3,420,960	71,877
特 別 会 計	国民健康保険特別会計		701,427	686,258	15,168
	後期高齢者医療特別会計		145,316	143,532	1,784
	介護保険特別会計		605,929	605,413	516
	旧北村旧菟並村旧里村財産区特別会計		114	90	24
	旧加茂町財産区特別会計		2,001	1,974	28
	旧瓶原村財産区特別会計		491	468	23
	旧当尾村財産区特別会計		153	124	29
	旧木津町準財産区特別会計		3,013	3,013	0
公 営 企 業 会 計	水道事業会計	収益的収支(税込み)	195,072	189,134	5,937
		資本的収支(税込み)	12,497	46,483	△ 33,986
	公共下水道事業会計	収益的収支(税込み)	249,826	246,991	2,836
		資本的収支(税込み)	79,342	126,386	△ 47,044
合 計			5,488,019	5,470,827	17,192

※水道事業会計および公共下水道事業会計の収支不足分については、内部留保資金等で補てんしています。

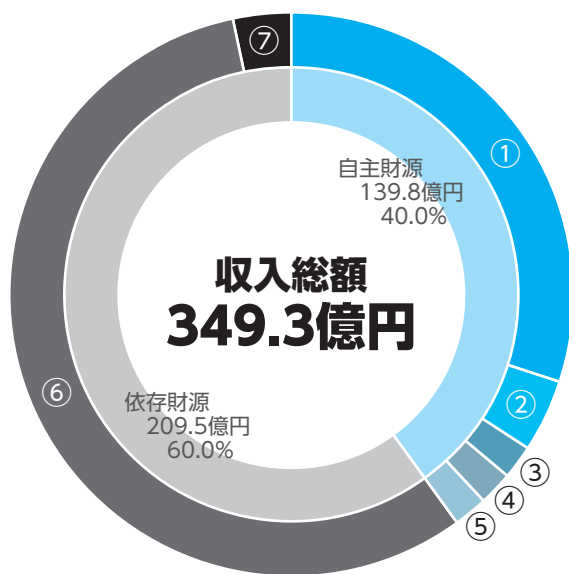
端数処理のため、合計と差引額が一致しない場合があります。

木津川市の収入状況

「収入にはどのようなものがあるのか」という視点で紹介します。

一般会計歳入決算

歳入のうち、市民の皆さんに納めていただいた市税は約3割です。
半分以上は国や府からのお金（国府支出金）や借金（市債）などです。



自主財源 木津川市が自主的に収入できた財源 **139.8億円**

- ① **【市税】 105.0億円**
市民の皆さんに納めていただいた税金
- ② **【繰越金】 15.2億円**
前年度から繰り越されたお金
- ③ **【繰入金】 6.7億円**
積み立てた基金や特別会計から受け入れたお金
- ④ **【使用料・手数料など】 6.7億円**
施設の使用料や行政サービスの手数料など
- ⑤ **【その他】 6.2億円**
木津川市の財産を売ったり貸したりした収入など

依存財源 国や府から交付された財源 **209.5億円**

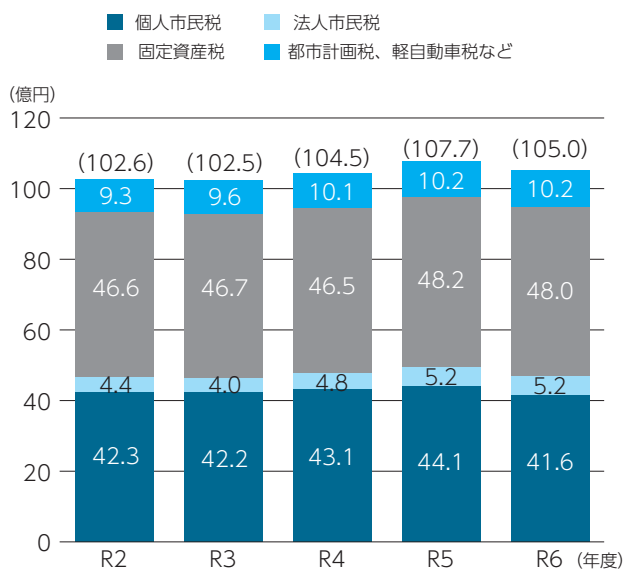
- ⑥ **【国府支出金、交付金】 198.1億円**
国や府から交付されたお金
- ⑦ **【市債】 11.4億円**
施設整備などのために借り入れたお金

※「国府支出金、交付金」には、皆さんがお買い物をされたときに支払う消費税から、市に交付される地方消費税交付金17.5億円が含まれます。
なお、交付される地方消費税交付金のうち10.7億円は、市が実施する子育て支援や高齢者支援などの社会保障施策に活用しました。

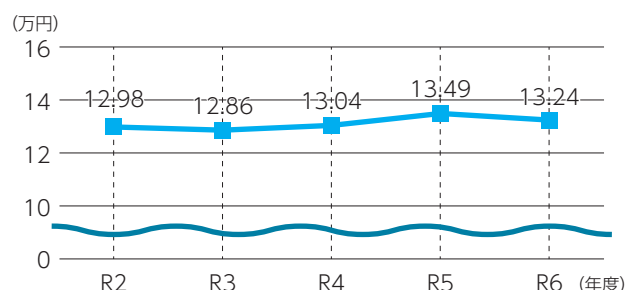
●市税の中身

土地や家屋にかかる固定資産税と個人市民税の割合が大きく、あわせて約9割を占めています。また市民1人あたりの市税収入は約13.2万円となっています。

市税収入額



市民1人あたりの市税収入額



令和6年度は、定額減税の影響で市税収入が前年度から減少していますが、当該減少分は国から地方特例交付金で補てんされています。

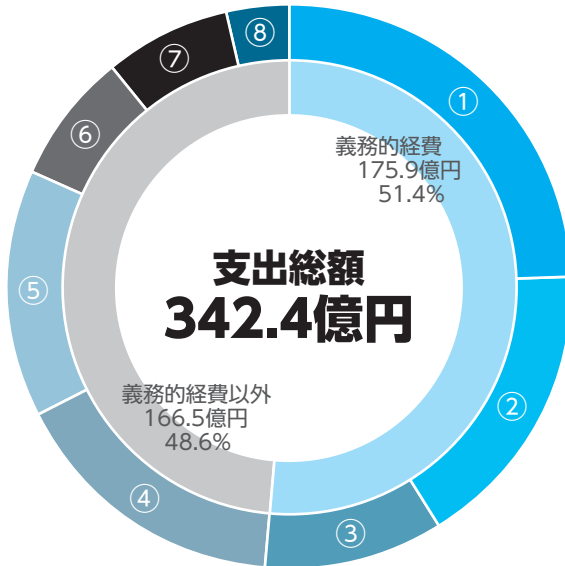
※市民1人あたりの市税収入額は、市税総額を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

木津川市の支出状況

「どのような経費に使ったか」、「何のために使ったか」という2つの視点で紹介します。

どのような経費に使ったか 【性質別】一般会計歳出決算

扶助費、人件費、公債費のような必ず支払わなければならない経費（義務的経費）の割合が大きいほど、財政の硬直化が進んでいることを示します。



義務的経費 法令や性質により支出が義務付けられている経費 **175.9億円**

- ① **【扶助費】 87.1億円**
こども、高齢者、障がい者、生活困窮者などを支援した費用
- ② **【人件費】 56.4億円**
市職員の給料や手当、各種委員報酬などの費用
- ③ **【公債費】 32.4億円**
借り入れたお金の返済のための費用

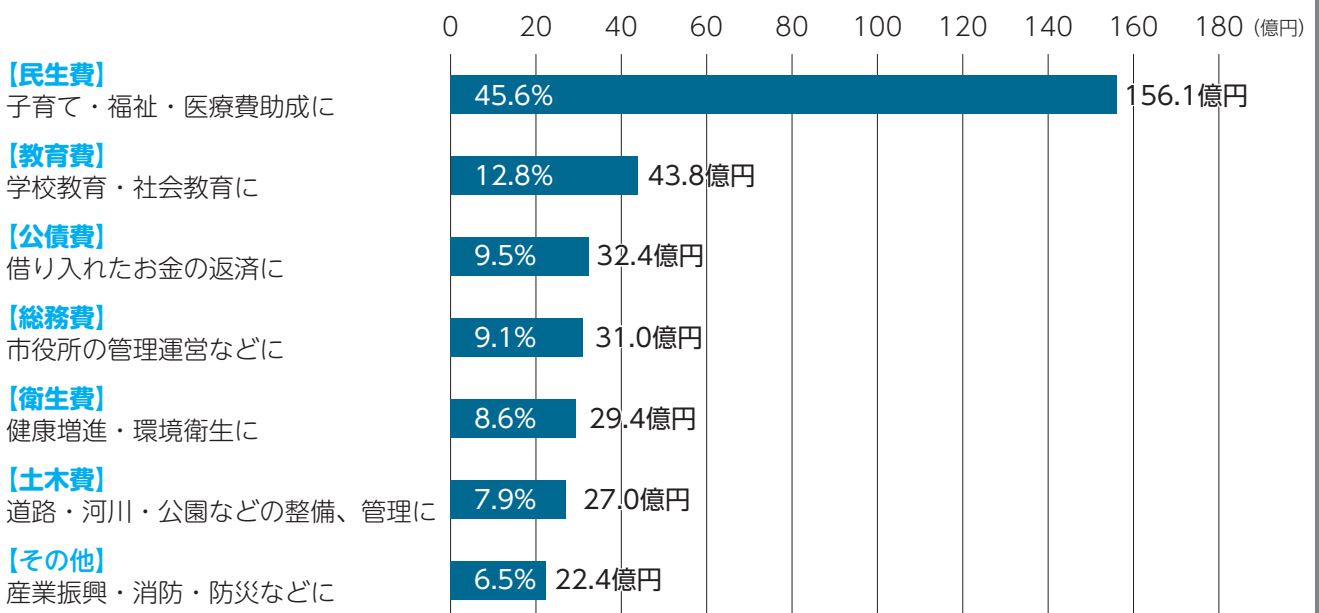
義務的経費以外 **166.5億円**

- ④ **【補助費等】 56.4億円**
公営企業や一部事務組合などへの各種負担金や補助金などの費用
- ⑤ **【物件費】 48.3億円**
物品の購入費用など消費的性質の経費
- ⑥ **【繰出金】 25.3億円**
特別会計に支出した費用
- ⑦ **【投資的経費】 25.0億円**
道路や学校など公共施設等整備の費用
- ⑧ **【その他】 11.5億円**
公共施設等の維持補修費や基金への積立金などの費用

※【性質別】一般会計歳出決算は地方財政状況調査に基づくため、令和6年度一般会計歳出決算額とは一致しません。

何のために使ったか 【目的別】一般会計歳出決算

子育てや福祉、教育、健康増進、道路の整備など幅広い分野にお金が使われています。



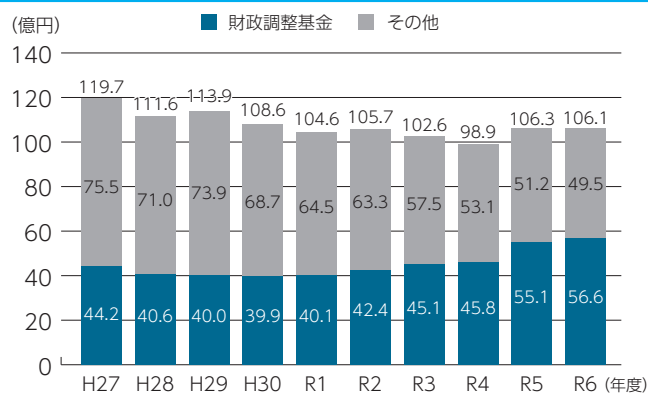
基金（＝貯金）の残高

●木津川市の貯金「基金」

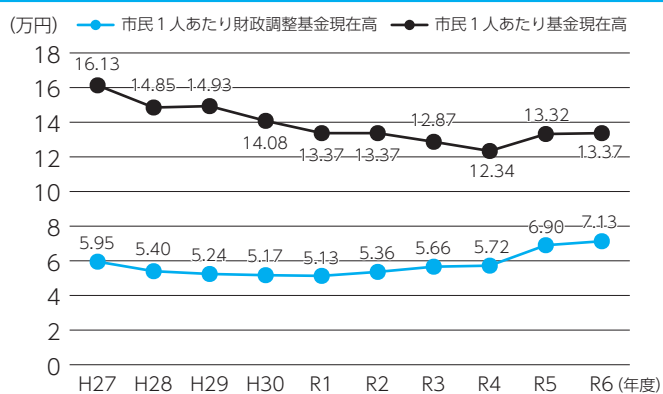
木津川市にも貯金があり、「基金」と呼んでいます。基金はそれぞれ目的が決まっており、その目的のために積み立てたり、取り崩したりしています。

基金の種類(主なもの)	令和6年度末 現在高	目 的
財政調整基金	56.6億円	年度内の財源を調整
公共施設等整備基金	31.1億円	公共施設などの整備の円滑化と促進
地域福祉基金	5.9億円	少子高齢化社会に対応した保健福祉の推進
循環型社会推進基金	3.5億円	ごみの減量と再資源化を進め、次世代に豊かな自然環境を継承
ふるさと応援基金	1.6億円	ふるさと応援寄附金を活用し、本市のまちづくりを推進
清掃センター建設整備基金	1.6億円	清掃センターの建設整備及び事業の円滑化と促進
その他	5.8億円	市債の償還や里地里山保全事業の実施など
合 計	106.1億円	

基金現在高



市民1人あたりの基金現在高



※一般会計に属する基金の残高です。

市民1人あたりの基金現在高は、基金総額を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

令和6年度の財政調整基金の残高は、令和5年度の決算剰余金（歳入歳出差引額）の一部などを積み立てたことで増加しましたが、議会音響設備更新や相楽会館改修の負担金に「公共施設等整備基金」を活用するとともに、環境の森センター・きづがわを建設した際の借入金を返済するために「清掃センター建設整備基金」を計画的に活用したことにより、基金全体の残高は減少しました。

市債（＝借金）の残高

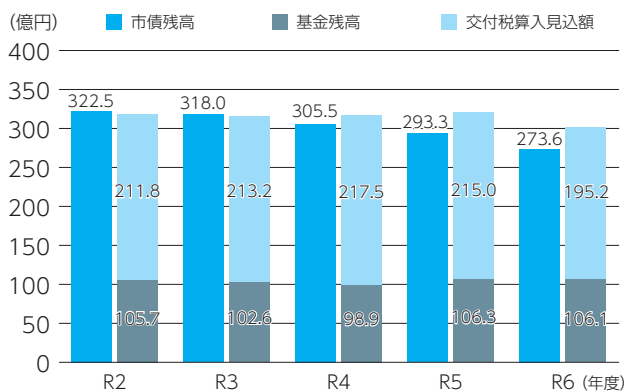
●木津川市の借金「市債」

道路の整備や学校などの公共施設を建設するときには、「市債」と呼ばれる借金をしています。借りたお金は整備したものの耐用年数を考慮し、返済していきます。

なお、学校の建設や道路の整備など国が進める事業を行うための市債には、返済費用の一部を国が地方交付税で負担してくれるものもあります。この制度を使えば、実質的に木津川市にとっては返済にかかる負担が減ることになります。

令和6年度決算における一般会計の市債残高約273.6億円に対する実質的な借金は、市債残高から地方交付税算入額を差し引いた約78.4億円となります。

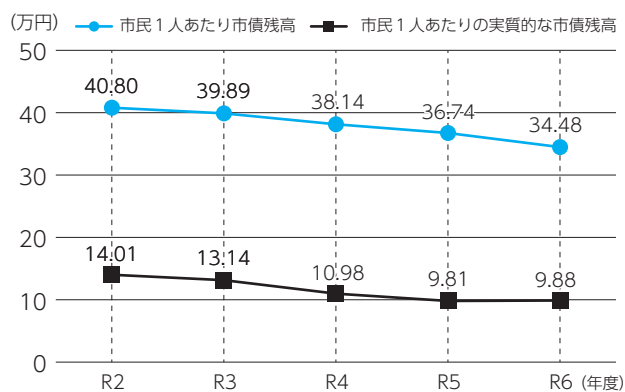
市債残高・基金残高・交付税算入見込額



※一般会計における市債残高、基金残高、地方交付税算入見込額です。

市民1人あたり市債残高は、残高を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

市民1人あたりの市債残高

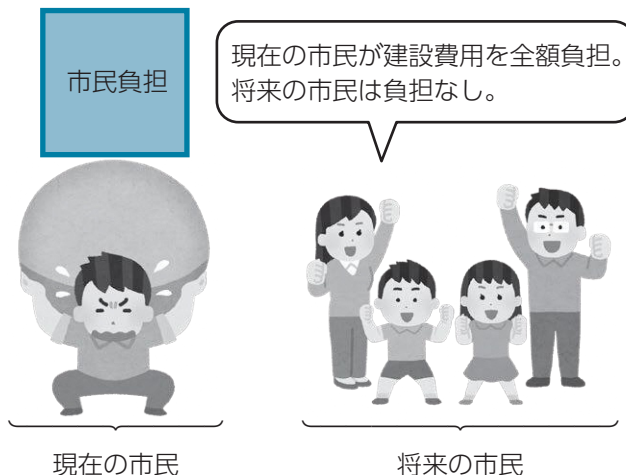


令和6年度は、小川内水対策や社会教育施設の改修などのため、11億円以上の市債を発行しましたが、31億円以上の返済を行ったため、市債残高は減っています。

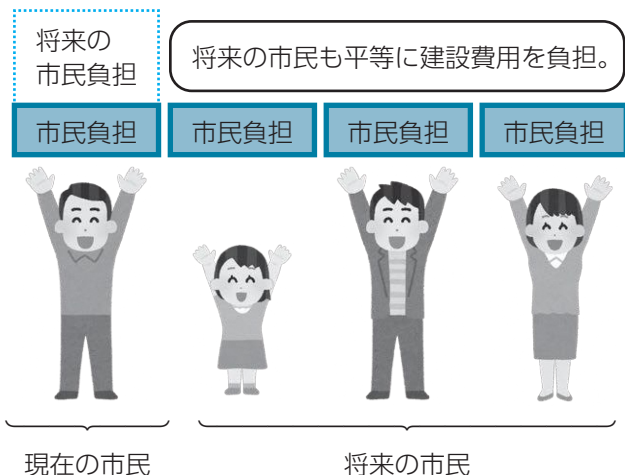
●借金をする理由

公共施設などの建設にはたくさんのお金がかかりますが、その年度だけで支払ってしまうと他の行政サービスが十分にできなくなってしまうおそれがあります。また、施設は長期間にわたり使いますので、市債を活用して負担を平準化することで、今住んでいる市民だけでなく、将来施設を利用する市民も含めて負担を平等にしています。

○市債を使わないで事業を行うと・・・



○市債を使うと・・・



健全化判断比率の状況

● 財政の健全度を示す健全化判断比率

地方自治体の財政破綻を未然に防ぐために、財政の健全度を客観的に判断する指標として、健全化判断比率（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率）の公表が法律で義務付けられています。

木津川市は、健全化判断比率の全ての指標において国が定める基準を下回っており、健全な財政を維持しています。

ここでは、「実質公債費比率」と「将来負担比率」の状況と、第4次木津川市行財政改革行動計画に定めている将来（令和10年度）の目標値を紹介します。

実質公債費比率

借金の返済に困ってないか？

令和6年度（3か年平均）：**9.9%**

令和10年度目標値：**9.0%未満**

○年収（市税、各種譲与税、交付金など）に対して、1年間の借金の返済額（公債費）がどの程度なのかを示す指標で、数値が大きいほど、借金の返済が家計を圧迫していることを示しています。

○木津川市は、国が定める早期健全化基準（25.0%）を大きく下回っており、引き続き計画的な借入れを行うことが重要です。

家計に例えると

実質公債費
比率

=

年間の
借金返済額
年収

将来負担比率

将来世代に過度な負担を押し付けていないか？

令和6年度：**▲5.9%**

令和10年度目標値：**0%未満**

○年収（市税、各種譲与税、交付金など）に対して、借金の残高（市債残高）や将来に支払いが約束された債務（公債費に準じる債務負担行為）がどの程度なのか実質的な将来の負担を示す指標で、数値が大きいほど将来、家計を圧迫することが懸念されます。マイナスの場合は、将来支払う額よりも、現在の貯金などが多いことを示しています。

○木津川市は、国が定める早期健全化基準（350.0%）を大きく下回っており、今後も健全性を維持していくことが重要です。

家計に例えると

将来負担
比率

=

ローンやカード等
の返済予定総額
年収

● 健全化判断比率の推移

区 分	R2	R3	R4	R5	R6	国が定める基準	
						早期健全化 基準(R6)	財政再生 基準(R6)
実質赤字比率	—	—	—	—	—	12.52%	20.00%
連結実質赤字比率	—	—	—	—	—	17.52%	30.00%
実質公債費比率	9.0%	9.3%	9.5%	9.8%	9.9%	25.0%	35.0%
将来負担比率	20.3%	11.2%	2.5%	—	—	350.0%	

※「—」は実質赤字額、連結実質赤字額、将来負担額がないこと（比率が0%未満）を意味しています。

その他の財政指標

地方公共団体の財政状況をあらわす指標のうち、ここでは、「経常収支比率」、「実質収支比率」、「財政調整基金残高比率」、「財政力指数」の状況と、第4次木津川市行財政改革行動計画に定めている将来（令和10年度）の目標値を家計に例えて紹介します。

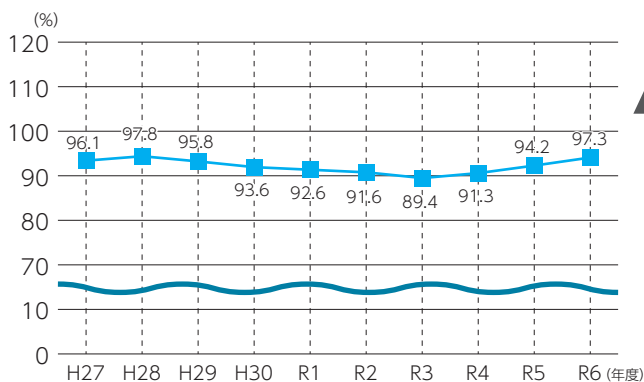
経常収支比率

財政構造の弾力性（ゆとり）はあるか？

令和6年度：**97.3%**

令和10年度目標値：**90%未満**

○給与（市税、各種譲与税、交付金など）など経常的な収入が、食費（人件費）や医療費（扶助費）、ローンの返済（公債費）など生活するうえで欠かせない経費に対して、どのくらいの割合で充てられているのかを示す指標で、割合が高いほど、生活に余裕がなく、借金や貯金を取り崩すなどして、生活のために家計をやりくりしている状態にあるといえます。



高いほど弾力性がない

家計に例えると

経常収支
比率

食費や医療費など
生活の中で必ずかかる費用
＝
給与などの収入

○令和6年度は、給与など経常的な収入が増加したものの、食費など生活するうえで欠かせない支出が大きく増加したことで、3年連続して比率が悪化しました。食費や医療費は今後も増加が見込まれるため、収入を増やす努力やその他の生活費を節約していくことが必要です。

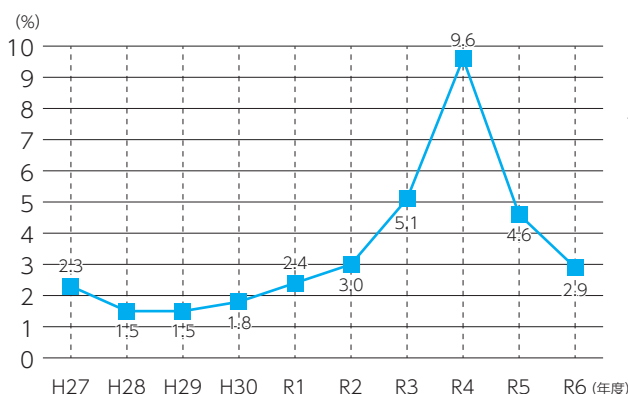
実質収支比率

収支は適正な規模にあるか？

令和6年度：**2.9%**

令和10年度目標値：**3.0%**

○今年度の収入合計から支出合計を引き（形式収支）、来年度に使わなければならない経費（翌年度に繰越すべき財源）を更に引いた額（実質収支額）が、年収（標準財政規模）に対してどのくらいの割合なのかを示す指標で、3%～5%が望ましいとされています。これは、民間企業のように黒字が多ければ多いほど良いというものではなく、営利目的ではない地方公共団体においては、適正規模とすることが必要です。



高いほど黒字が出ている

家計に例えると

実質収支
比率

家計の収支額
(実質収支額)

＝
年収
(標準財政規模)

○令和6年度は、前年度に比べて比率が低下したものの、実質収支が黒字で、割合も2.9%と概ね望ましい値となっており、引き続き適正規模での財政運営が必要です。

令和6年度は、
貯金（財政調整基金）は増加していますが、
食費（人件費）や医療費（扶助費）は今後も増加が
見込まれるので、生活に余裕がありません。
収入を増やしたり生活費を節約するなど、
家計の改善が必要です。



©木津川市

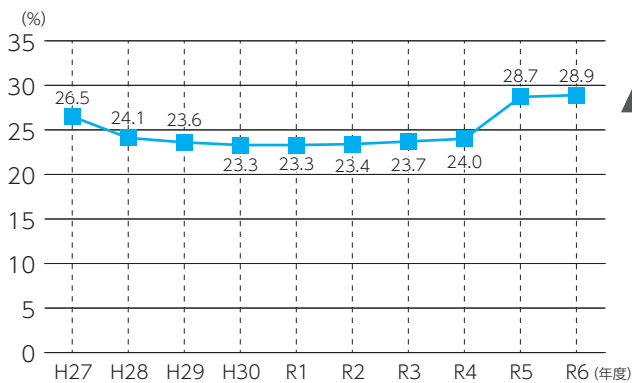
財政調整基金残高比率

不測の事態への蓄えは十分か？

令和6年度：**28.9%**

令和10年度目標値：**20.0%**

○用途を定めず今後のために蓄えた貯金（財政調整基金）の残高が、地方自治体が標準的な状態で、年収（標準財政規模）に対してどのくらいの割合なのかを示す指標で、家計をやりくりしたり（財源調整）、急変した場合（災害等の不測の事態）に備え、一定規模の割合を確保しています。



高いほど備えがある

家計に例えると

財政調整基金
残高比率

=

貯金残高

年収
(標準財政規模)

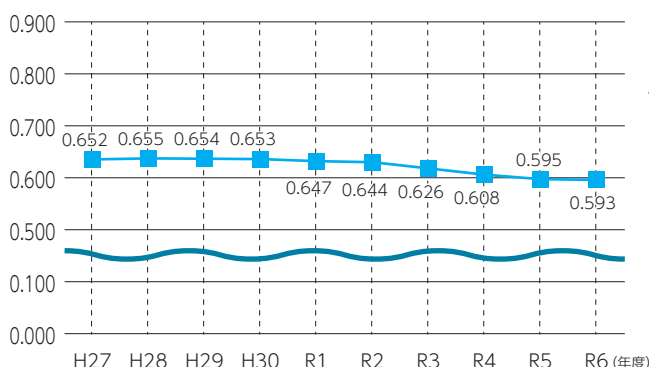
○令和6年度は、財源調整のために約3億円を取り崩しましたが、前年度の剰余金が大きく、その一部を積み立てたことで、残高が増加し、割合が高くなっています。

財政力指数

自分の収入で生活がどれだけ賄われているか？

令和6年度（3か年平均）：**0.593**

○標準的な家庭で生活（標準的な行政サービス）を営むために必要なお金（基準財政需要額）を、給与などの収入（基準財政収入額）でどれくらい賄えているかを示す指標で、数値が大きいほど家計に余裕があるとされ、1を下回るとお金が不足している状態として、地方交付税に頼ることになります。



高いほど財政力が高い

家計に例えると

財政力
指数

=

給与などの収入

標準的な生活に
必要な費用

○年々標準的な行政サービスに必要なお金が増加しており、給与などの収入だけではこれを賄えていない状態が続いています。

令和6年度の主な事業



©木津川市

令和6年度の
主な事務、事業
を紹介します。

令和6年度からスタートした「第2次木津川市総合計画後期基本計画」に基づき、子育て支援、教育環境の整備、公共施設の長寿命化に取り組んだことに加えて、木造住宅の耐震化、道路の安全対策、内水対策の推進など、令和6年能登半島地震を受けての災害に強いまちづくりに係る取り組みや、脱炭素社会の実現に向けた取り組み、行政手続きオンライン化などを行いました。

また、物価高騰対策として市民や事業者の皆さんへの支援にも取り組みました。

それでは、第2次木津川市総合計画後期基本計画に掲げる7つの基本方針に沿って紹介します。

基本方針1 ともに「学び」「喜び」「成長し」 未来を生きるこどもを育むまちづくり



園巡回支援相談体制の強化

185万円

こどもの発達の課題を保育者と共有するとともに、かわかり方など、より専門性の高い助言を行うため、小規模保育園を除いた市内保育施設に新たにスーパーバイザーを派遣しました。



保育ICT推進事業

3,383万円

公立保育園・こども園8園に、園と保護者間の連絡業務や園の諸事務をICT化することで双方の利便性の向上と保育士の業務負担軽減を図るため、保育業務支援システムを導入しました。



クラウド型授業支援アプリ導入

748万円

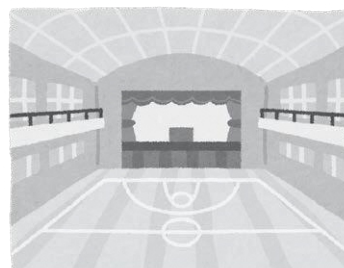
家庭での学習や教育データの蓄積・活用を行うため、児童生徒に様々な切り口の思考や説明能力の向上を支援するクラウド型授業支援アプリを導入しました。



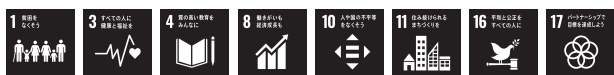
小中学校体育館照明LED化・中学校体育館空調設備の工事設計

3,564万円

小学校体育館の老朽化に伴う対策として、既に照明をLED化している小学校以外の10校の照明LED化工事の設計を行いました。また、生徒等の熱中症対策及び体育館の老朽化に伴う対策として、中学校体育館等の空調設備整備、照明LED化工事の設計を行いました。



基本方針2 誰もが生き生きと、生涯元気で暮らせるまちづくり



「ちょこっと ながも」の運行開始

734万円

令和6年12月から南加茂台地域の65歳以上の市民を対象とした高齢者健康増進・移動支援モデル事業「ちょこっと ながも」の運行を開始し、地域内での買い物やJR加茂駅までの移動などに利用いただきました。



運行している
「ちょこっと ながも」

アピアランスケア支援

55万円

がん患者の、薬物療法・放射線治療による脱毛や手術療法による乳房切除など、がん治療に伴う外見の変化に起因する苦痛を軽減することなどを目的に、ウィッグなどの購入に要する費用を助成しました。



児童発達支援センターの開設・運営

5,447万円

令和6年4月に相楽児童発達支援センター（ひまわり）を設置し、児童発達支援、保育所等訪問支援などの各種事業を実施しました。



ひまわりの室内遊具

社会教育施設・社会体育施設の改修工事

4億2,299万円

中央交流会館、加茂文化センター、山城総合文化センター、中央図書館、スポーツセンター、当尾の郷会館の長寿命化改修工事や照明LED化改修工事などを行いました。

また、加茂文化センター及び山城総合文化センターにおいて、特定天井脱落対策・照明器具LED化等改修工事のための設計を行いました。

基本方針3 一人ひとりが認め合い、力を発揮できるまちづくり



若者会議の開催

31万円

若者世代が木津川市に興味を持ち、木津川市への定着、ふるさと木津川市への想いを醸成するため、「木津川市若者会議」を計4回開催し、シビックプライドメッセージ「Cute!」の決定、ビジュアル化を行い、今後の活動用のロゴマークを作成しました。



施設複合化に向けた木津人権センターの解体

2,581万円

木津人権センターと木津児童館の複合化を進めるにあたり、木津人権センターの解体工事を行いました。



木津人権センター
跡地

基本方針4 人・資源・立地を活かし、未来を拓く産業のまちづくり



石のカラト古墳緑地内防犯灯LED化

187万円

防犯灯5基のうち、老朽化により点灯しなくなった防犯灯があったため、一括でLED照明に更新する工事を実施しました。



石のカラト古墳緑地の一角

史跡恭仁宮跡（山城国分寺跡）保存活用計画の策定

317万円

史跡恭仁宮跡の適切な保存と活用が一層推進されることを目的に、パブリックコメントを実施の上、計画を策定しました。



策定した保存活用計画

農作物高温対策支援

110万円

記録的な猛暑の影響による農産物等の生育不良による収量の減少や品質低下などが発生すると予想されたため、高温対策機器（循環扇・換気扇）の導入や井戸を設置した農業者に対し補助金を交付しました。



スマート農林水産業実装チャレンジ事業

219万円

経営規模の拡大に伴いGPSによる直進アシスト付きの大型トラクターを導入し、作業効率の向上と併せて作業データの記録により作業分析や作業状況の把握を行い、経営の改善・発展を目指す認定農業者に対し補助金を交付しました。



基本方針5 災害などから市民を守り、安心・安全に暮らせるまちづくり



木造住宅の耐震診断・耐震化改修支援

878万円

地震に強いまちづくり推進のため、耐震診断（17件）を実施しました。また、令和6年能登半島地震により木造家屋が多数倒壊したことを鑑み、本格耐震改修に係る市の補助上限額の引き上げを行い、耐震改修費用に対する補助として、木造住宅本格耐震改修事業補助金（5件）、木造住宅簡易耐震改修事業補助金（1件）を交付しました。

本格耐震改修の補助上限額の引き上げについて

（引き上げ前）

補助基本額 125万円			
国 50万円	府 25万円	市 25万円	市民 25万円

（引き上げ後）

補助基本額 175万円			
国 50万円	府 50万円	市 50万円	市民 25万円

小川内水対策事業

2億8,674万円

過去に浸水被害が発生している小川・反田川流域の被害軽減を目的とした内水排除施設の整備に向けて、工事ヤードの土地使用契約や電源装置及びポンプ制御装置を設置しました。

これにより小川内水排除施設の排水ポンプ増強が完了し、令和7年度より運転を開始しました。



完成した小川内水排除施設

木津川市総合防災マップの改訂

2,002万円

5年ぶりに総合防災マップを改訂、最新情報に更新するとともに、冊子版と地図版で構成し、利用者目線に立った総合防災マップを作製し、配布しました。



改訂後の総合防災マップ

法面安全対策事業

1,444万円

加茂町大畑地域へ通じる市道加2-15号線に面した落石などが発生している箇所の法面安全対策を行うための詳細設計を実施しました。



落石防止網
設置予定箇所

通学路安全対策事業

1,157万円

城山台地域から木津南中学校への推奨通学路となる市道木337号木津南北線の歩道拡幅を実施しました。

また、梅美台小学校通学路の横断歩道2箇所のカラー舗装化工事を行いました。



拡幅した
木津南北線歩道

基本方針6 快適で住みよい生活環境と、豊かな自然に恵まれたまちづくり



脱炭素社会・循環型社会に向けた取組みの推進

2,371万円

地球温暖化対策のための国民運動であるデコ活事業を実施し、市民や事業者等と連携して持続可能な脱炭素社会づくりに向けた取組みとして、商業施設における環境イベント「エコフェスきづがわ」の開催や、小中学校向け出前授業（13校、延べ129クラス）、再配達防止のための宅配ボックスシール等の啓発資材の作成などを実施しました。

また、脱炭素社会の実現に向けた取組みの一環として、軽貨物の電気自動車を購入しました。

加えて、更なるごみの減量や再資源化施策を実施するため、循環型社会推進基金を活用し、広報折込用チラシ「MOTTAINAI便り」の発行や雑がみ保管袋の作成・配布、古紙集団回収事業に対する補助、市民提案型ごみ減量活動等に対する補助などを行いました。

発行したMOTTAINAI便り（左）
エコフェスきづがわの様子（右）



木津川台駅前線の整備

2億2,007万円

歩行者専用立体横断施設を整備するための設計・積算業務や工事ヤードの土地使用契約、JR学研都市線直上の1径間の橋りょう架設に伴う工事委託及び橋りょう製作を実施しました。



製作した橋桁

地域おこし協力隊の活動推進

750万円

都市地域から加茂地域に移住し、高齢化が進む南加茂台をメインフィールドに、地域の方々と交流を深めながら取材や記事作成に取り組む「ライティング・コミュニケーター」として、地域おこし協力隊を任用しました。



任命された
地域おこし協力隊

基本方針7 効果的・効率的な行政運営と市民に開かれたまちづくり



窓口字幕表示システムの導入

58万円

外国人住民や聴覚障がいのある方を含めた多くの市民に、より分かりやすく伝わりやすい窓口を目指して、翻訳や会話の文字起こしをリアルタイムで行いアクリル板に表示するシステムを導入しました。



導入した窓口字幕表示システム

書かない窓口システムの横展開

941万円

令和3年度に導入した「書かない窓口システム」について、更なる市民サービスの向上のため、市民課以外の5課（国保年金課、こども未来課、社会福祉課、高齢介護課、学校教育課）へ導入しました。

通話録音機の導入

61万円

電話対応におけるトラブルの未然防止と、職員への不正な圧力の排除を図り、業務の公正かつ適正な執行を確保することを目的として、市民から寄せられる日常的な電話対応について、万が一に備えた記録と管理を行うため、ひかり電話回線に対応した通話録音機を導入しました。



物価高騰等の影響を受けた市民や事業者に対する支援（主なもの）

低所得者支援及び定額減税補足給付金

8億4,643万円

物価高騰による負担増を踏まえ、令和6年度に新たに住民税非課税世帯となった世帯及び住民税均等割のみ課税となった世帯に対し1世帯あたり10万円、うち18歳以下の児童を含む世帯には児童1人あたり5万円を加算し支給しました。また、令和6年度に実施された定額減税において、令和6年分の所得税と令和6年度の個人住民税を定額減税で減税しきれなかった方に対し、定額減税補足給付金（調整給付）を給付しました。

低所得者支援給付金

2億637万円

物価高騰による負担増を踏まえ、特に家計への負担が大きい令和6年度非課税世帯に対して1世帯あたり3万円、うち18歳以下の児童を含む世帯には児童1人あたり2万円を加算し給付しました。

エネルギー・食料品等価格高騰重点支援給付金

2億4,550万円

物価高騰による負担増を踏まえ、特に家計への負担が大きい令和5年度住民税均等割のみ課税世帯に対して1世帯当たり10万円、うち18歳以下の児童を含む世帯には児童1人あたり5万円を加算し給付しました。

公共交通確保維持支援金

1,158万円

運行経費高騰の影響がある路線バス及びタクシー事業者に対し、公共交通確保維持支援金を交付しました。



就学援助事業

1億154万円

経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者及び特別支援学級在籍児童生徒の保護者に対し、児童生徒に平等な教育の機会を与えることを目的に援助を行いました。



キャッシュレス決済販売促進事業

2,888万円

市内の対象店舗でキャッシュレス決済を利用する際に使用できるプレミアム付デジタル商品券（5,000円/1口、プレミアム率25%）を発行しました。

学校給食費物価高騰対策

5,807万円

食料品等の物価高騰の影響による学校給食費高騰分に対し、保護者負担を改定することなく、安心安全な学校給食を安定して提供するため、学校給食費物価高騰対応補助金を支出しました。



民間認定こども園・幼稚園への物価高騰対策補助

943万円

利用者及び事業者の負担を軽減し、良好な保育サービスを継続できるよう、食材費などの物価高騰に対する支援として補助を行いました。

木津川市ふるさと寄附金

ふるさと納税などを通じてご支援いただいた皆さんの温かい思いにお応えをして、希望されたメニューに大切に活用させていただきました。また、令和6年度では、1億8,891万円のご寄附をいただきました。ご支援ありがとうございました。

活用希望メニュー

万葉の里メニュー	こども夢・未来事業	生物多様性保全事業	観光振興事業	市長にお任せ
				
国宝や重要文化財などの修理、修復など文化財保全などに活用します。	中学生海外派遣事業、ICT教育の推進などに活用します。	学研木津北地区での里山保全活動などに活用します。	木津川アートや市民まつり等のイベントなどに活用します。	市民の皆さんがいきいきと暮らせるまちづくりのために必要な事業に活用します。

令和6年度 ふるさと応援基金の活用実績

これまでいただいた寄附金から必要経費を差し引いた額を基金に積み立て、翌年度以降に活用しています。

こども夢・未来事業

ICT教育推進事業

1,628万円（活用額805万円）

家庭の経済状況によって左右されることなく、質の高い教育を受けられるようにするため、生徒の理解度に合わせ個別最適に学べるよう、公立高校入試の過去問題などが収録されたAIドリルを中学校に導入しました。また、小学校の教科書の改訂に伴う、指導者用デジタル教科書を購入しました。



あそびでつながるプレイフルパーク事業

111万円（活用額55万円）

こどもたちの学びの体験の場「あそびでつながる」をテーマに、遊具を活用した遊びを通して、こどもや保護者の交流を促進するイベントを開催し、368人の参加者がありました。



プレイフルパークで遊ぶこどもたち

公園遊具設置事業

81万円（活用額40万円）

エンジュ公園に新たに鉄棒を設置しました。



エンジュ公園の鉄棒

中学校ウォータークーラー設置事業

385万円（活用額190万円）

熱中症対策として、未設置の中学校3校（木津・木津南・山城）に2か所ずつ冷水器（ウォータークーラー）を設置しました。



木津中学校のウォータークーラー

木津川市特色ある学校づくり推進事業 200万円（活用額100万円）

市立小中学校からの事業提案を受け、学校、児童生徒及び地域実態等の特性を生かした特色ある教育活動を推進しています。

令和6年度は16の事業を認定し、教育活動の一層の充実を図りました。



授業の様子

木津川市国際交流協会補助事業 391万円（活用額135万円）

木津川市の未来を担う中学生を広い視野と国際感覚を備えた人材として育成することを目的として、木津川市国際交流協会による、友好都市サンタモニカ市への中学生派遣事業に対する補助を行いました。



サンタモニカへの
出発式

市長にお任せ

防災士養成事業 311万円（活用額150万円）

市民の自助、共助意識を高めるため、市民を対象に防災士養成講座を開催し、新たに47人の防災士を養成しました。（令和6年度末までに養成した防災士：239人）

防災士の資格を有し、ご協力いただける方には、木津川市地域防災リーダーとして、各地域の自主防災組織等の中核として地域防災力の向上のけん引役を担っていただきます。

講座の様子



保育所待機児童対策事業 4,240万円（活用額2,000万円）

待機児童対策として、支援の必要な児童のための加配保育士の増員を行った他、午睡時の見守り強化のため、新たに保育士等の配置を行いました。



観光振興事業

森林公園展望台修繕事業 114万円（活用額20万円）

山城町森林公園の来園者の安全を考慮し、展望台へ上がる階段の修繕を行いました。

また、展望に支障がある樹木の伐採を行いました。



修繕後の展望台階段

木津川市市民まつり2024開催事業 1,464万円（活用額270万円）

市内で活動する団体の協力による夏祭り実行委員会を組織し、市民の手による、市民みんなが楽しめる木津川市市民まつり2024を開催しました。



市民まつりで打ちあがった花火

生物多様性保全事業

里地里山保全補助事業

225万円（活用額35万円）

学研木津北地区の里地里山保全を保全活動団体との協働により推進するため、木津川市地域連携保全活動応援団に補助を行いました。



里山の風景

万葉の里メニュー

指定文化財保全費補助事業

109万円（活用額50万円）

国指定重要文化財である岩船寺厨子入木造普賢菩薩像の修理、府指定文化財である岡田国神社の舞台屋根修理に対する補助を行いました。



修理した岡田国神社の舞台屋根

令和6年度 企業版ふるさと納税による寄附金の活用

企業版ふるさと納税とは、「地域再生計画」に基づき実施する事業に対して、企業の皆さんからご寄附をいただくものです。

令和6年度は、次の事業の財源として有効に活用しました。

○けいはんな万博2025開催事業

事業費395万円（活用額395万円）

○木津川市総合防災マップ改訂版作成業務

事業費2,002万円（活用額490万円）

○木津川アート2025プレイベント開催事業

事業費550万円（活用額90万円）

○木津川市市民まつり2024開催事業

事業費1,464万円（活用額910万円）

○学研木津北地区保全推進事業

事業費895万円（活用額300万円）

○産官学連携人材育成事業（緑越）

事業費見込1,650万円（活用額1,650万円）

○ICT教育推進事業

事業費3,633万円（活用額1,110万円）

○木津川市国際交流協会補助事業

事業費391万円（活用額110万円）

合計 事業費8,475万円（活用額5,055万円）



けいはんな万博



木津川アート2025プレイベント

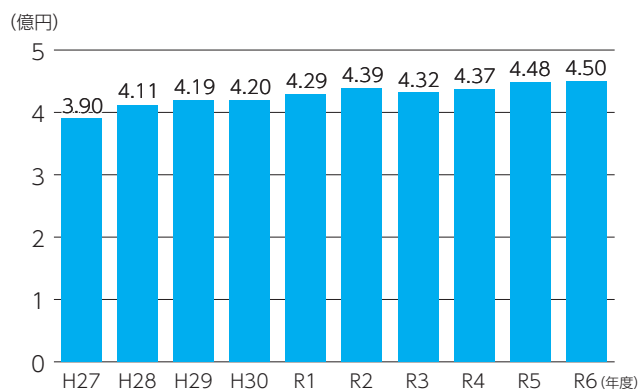
都市計画税に関する事業

●都市計画税

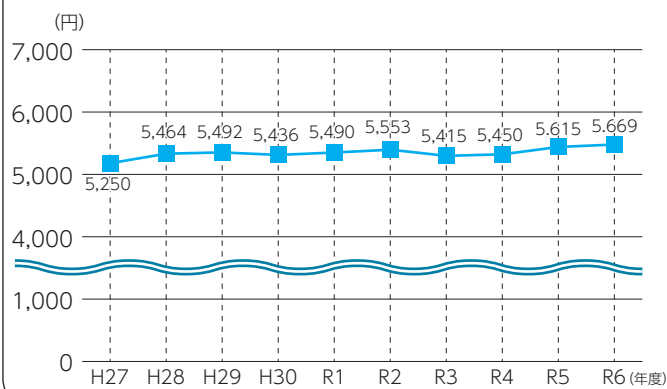
都市計画税は、市街化区域内に土地や建物を所有される方に課税される税金です。これは、市街化区域内で行われる道路や下水道のインフラ整備などに必要な費用を賄う目的で課税されます。

税率の上限は0.3%ですが、木津川市では0.15%としています。

都市計画税



市民1人あたりの都市計画税



※市民1人あたりの都市計画税は、税額を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

●実施している都市計画事業

納めていただいた都市計画税4億4,981万円は、一般財源7億886万円に含め、山手幹線や下水道の整備に活用するとともに都市計画事業のために借りた借金の返済に活用しています。

今後の都市計画事業については、都市計画マスタープランを基本として実施していきます。

(単位：万円)

事業の内訳	歳出額
山手幹線整備事業	155
公共下水道事業会計負担金	38,387
公共下水道事業会計出資金	19,611
都市計画事業に充当した市債の償還金	12,863
歳出合計	71,016

(単位：万円)

財源の内訳	歳入額
市債	130
一般財源	70,886
うち都市計画税	44,981
歳入合計	71,016



下水道の整備 (5億7,998万円)



山手幹線の整備 (155万円)



借金の返済 (1億2,863万円)

「ちょっと便利なしあわせ」
南都銀行
アプリ
 アプリストアで「南都銀行」と検索!
 (木津支店) TEL.0742-81-7451

ならしん は
ATM 入出金手数料 終日無料 だよ!
 ※当金庫のキャッシュカードで当金庫 ATM をご利用の場合
奈良信用金庫
 木津川支店 ☎0774-72-4411

食と地域のパートナー
JA京都やましろ おかげさまで 30周年
 木津支店 TEL:0774-72-1771
 山城支店 TEL:0774-86-2276
 加茂支店 TEL:0774-76-2063

木津川市の家計簿



©木津川市

木津川市の1年間の
収入と支出を一般家庭の家計簿に例えて紹介します。
令和6年度の一般会計決算額を市民1人あたりにすると、
約43万円のお金を使ったことになります。わが家では、給与が約28万円で、
支出は約43万円でした。そこで、親から約12万円の仕送りを受けて、
さらにローンを約1万円借り入れましたが、
まだ不足する約3万円は貯金を引き出して、
やりくりしました。

(単位：円)

市民1人あたりの収入 (歳入)	令和6年度	令和5年度
給与 (市税、各種譲与税、交付金など)	276,783	267,101
親からの仕送り (国庫・府支出金など)	121,611	108,567
ローンの借入 (市債)	14,393	24,263
貯金からの引出し (繰入金・繰越金)	27,801	29,132
合 計	440,588	429,063

(単位：円)

市民1人あたりの支出 (歳出)	令和6年度	令和5年度
食費 (人件費)	71,041	64,008
医療費など (扶助費)	109,761	95,399
光熱水費、日用品費 (物件費)	60,848	58,221
こどもへの仕送り (繰出金)	31,882	30,073
家の修繕・増改築費 (維持補修費、普通建設事業費、災害復旧事業費)	37,320	37,961
ローンの返済 (公債費)	40,809	41,032
町内会費、サークル活動など (補助費等)	71,082	69,123
貯金・投資 (積立金、投資及び出資金)	8,785	14,240
合 計	431,528	410,057

令和7年1月1日現在の木津川市全人口 79,339人
令和6年1月1日現在の木津川市全人口 79,828人

収支のバランスを見て、
私たちの住むまちを
良くするために、
必要なことにお金を使う
ことが大切です。



©木津川市

※金額は、令和6年度と令和5年度の決算額を各年度
中1月1日時点の人口で割ったものです。

令和6年度木津川市決算のあらまし

発 行 令和7年12月 木津川市役所総務部財政課
電話番号 0774-72-0501(代表)
0774-75-1202(直通)
E-mail zaisei@city.kizugawa.lg.jp

ぐるぐる♪ 新規スタッフ募集中! / テレビCM放送中♪

21 DINS 大栄環境グループ

三重中央開発株式会社

京都リサイクルセンター ☎ 0774-76-6623

〒619-1132 京都府木津川市加茂町大畑背谷38番地1

株式会社タカコ 京都工場・技術革新センター

タカコの未来を拓く技術・工法開発の中核拠点誕生!!

タカコは「はたらくるま」に
搭載される部品を取り扱う会社です。
油圧ピストン部品では
世界シェアNO.1!!

所在地：京都府木津川市城山台二丁目2番地2 TEL：0774-51-1580

タカコ会社案内